

平成24年度 山口県介護支援専門員協会 常任理事会(第1回)
議事録

1 日 時

平成24年4月18日(水) 午後2時から午後4時まで

2 会 場

山口県セミナーパーク リハビリテーション実習室

3 出席者 8名

大久保千絵 橋康彦 古谷俊昭 佐々木啓太 廣兼裕之
繁澤廣美 岩神亜紀 松井康博

事務局 福祉人材研修部 主事 川崎真由美 職員 福本かおる

4 報告事項

- (1) 各部の活動状況について
- (2) 平成23年度事業報告について
- (3) 平成23年度収支決算について
- (4) 平成24年度事業計画(案)について

5 協議事項

- (1) 第9回山口県ケアマネジメント研究大会について
- (2) その他

6 審議の経過
大久保会長

挨拶の後、各部の活動状況について報告を求めた。

佐々木理事

キャスト GX の経費について、前回の理事会で話し合われた固定費の削減について、会の現状を考えると維持していくことが難しい状況なので、お知らせ、資料室、社会資源の情報部分を残した上でその他の内容を削る場合に費用の削減が出来るのか確認中である。

フリーメールで配信していく場合に事務局と分担してメールを一人一人登録していく作業になるので負担がかかるが検討していく。

岩神理事

実務事務研修東部の収支について、収入に対して支出はまかなえている状態である。中央開催の参加についても印刷した資料の部数ぎりぎりの人数が集まっているが参加者定員には届いていない状況であるので予算の見直しをする必要が既に出ている状態である。中央の人数が増えた際資料の増刷をするのか、参加される理事の方へ手刷りコピーの資料でお願いするのか方法を検討している。

公開事例検討について事例が出てきた段階でケースを決めて周知をしたほうが参加しやすいので、地域事務局には追って連絡していく。

制度改正説明会について 2 会場では難しいと県より連絡をいただいております、加えて会員の反応が鈍い状態なので、研修自体を実施せず Q&A 集を販売する等方向性を考える必要がある。精神疾患研修は会場を分けるとばらけるのであれば東部で開催する等検討していく。

繁澤理事

調査研究部はその後の活動はしてない状況。

廣兼理事

キャストに社会資源の情報を入れておらず、方向性も改めて考えていく必要がある。活動は特にしていない状況。

大久保会長

平成 23 年度事業報告について意見を求めた。

橘 副会長

県協会の研修に関する事業について県協会が開催した研修の中に地域支部で行われた研修の記載があるので派遣依頼を受けたものと、共催、後援をしたもの等に整理をした方がよいのではないか。

大久保会長

研修に関する事業の欄には県協会で行った事業のみ掲載する。

橘 副会長

関係機関の各種研修会に地域協会会議への参加を加えたらよいのではないか。

大久保会長

地域支部協議会研修会について派遣がなかったものについては事業報告から省き、共催の研修については共催後援の欄に整理していただく。

- 大久保会長 平成 23 年度収支決算について意見を求めた。
- 松井監事 4月11日に実施した監査の収支決算報告について、帳票、通帳、領収等の照合を行い過不足なく実施されている。収支の確認は出来ているが、総会の際監事の立場でお金の動きは確認した事と、適正に処理されていることについては報告するが、次年度予算について厳しい状況をどう説明するか申し合わせする必要がある。上野さんとの確認で2年後に予算が底を付くことの実事の報告と、マイナスになってしまった要因、原因と対応、改善点の説明を加えないといけないので確認の必要がある。
- 大久保会長 収支がマイナスになった意見が出てくることについての回答として、研修についてケアマネジメント研究大会が要因であり、会員の減少、事務委託費が会の運営と見合ったものになっていないことの説明をしていく。
- 佐々木理事 会員が地域から上がってきた際のチェック、年度途中の収支状況についての把握を事務局にまかせていた部分があり、チェック体制が甘かった。研究大会でも参加の呼びかけが不十分であり、努力を怠っていた。
事務委託先も会の運営を精査したうえでどうするのかという議論をしていなかったという反省がある。
- 大久保会長 ケアマネジメント研究大会の情報周知が遅く、早い段階でお知らせできていれば参加の可能性も高かったと思う。
補正を組む時期、軌道修正をする連携が出来ていなかった。
- 岩神理事 23年度の予算について研修に関して定員いっぱいに来ないと組めない予算になっていることに気づかないところがあった。
- 大久保会長 研修を増やしたことについても初年度なので予算の見込みも立てづらかった。研修単体では収益がでていたので、当初予算、執行状況を見ると赤字については研究大会が原因である。
- 松井監事 事業の成果として申し合わせていたことについて、研修単体で見るとプラスの結果が出ており、ケアマネジメント研究大会を含めてみると少し支出が多い形ででていますが、ほぼ黒字でまかなえているので、事業自体はたくさん組まれており、研修自体が赤字を膨らます原因にはないので、プラス面として出していったほうがよい。100%の研修参加で予算を立てる事業の組立てにしてはいけないことと、研修単体は黒字決算になっているので矛盾を感じるが、赤字になってもよい研修の組み立てを県協会でも検討すればよいのではないかと。
どこに金額がかかった要因の説明について研究大会の周知が遅かった等具体的な要因を明らかにすることをはっきりさせ、次に同じことを繰り返さないように努力、対策を行うことについて整理されたらよいのではないかと。
- 岩神理事 研究大会の広報時期が遅くなったことについて説明をいただき

たい。

橘 副会長

研究大会については開催案内を出すのが遅くなった。理事会が少なく、理事、地域協会との連携の取り方がない状態であり、理事の方への伝達が不十分であった。県協会会費の値上げについて代議員総会で出すことについても、理事、新理事の方への説明をどのようにするかで、地域協会とのつながりも変わってくるので、理事の方とのつながりを大切にしていかななくてはならない。

今年度繰越金が減ると分かっていたが、会員が増えると思っていた面もあり、会員を維持することも難しい状況であり、研修に頼っているところ等、本来そのような運営をしてはいけない。

24年度の予算を研修参加率100%で組んでいるので予算についても分析しないと総会で通らないのではないかと。理事会で意見をいただき総会までに今までの話を分析し、会の反省は会長にさせていただく。

大久保会長

今年度の予算立ても一応立てているが、総会までの研修について実績が出ている部分について今後の研修の見込みと照らし合わせていく必要がある。予測事態が難しくなっているので予算をうまく執行出来るかにかかっている。しかし、基礎研修についても受講生が減ってきている状況である。

岩神理事

基礎研修について内容は良いのだが、義務ではなく事業所努力になってきている。

大久保会長

委託金は今まで通りで、運営は成り立っているがそこに頼っている所がある。

繁澤理事

基礎研修の問合せについて、事業所努力であるが、参加を強く伝えないと動かない状況にある。基本の勉強なので細かな所の返事が聞ける等のバックアップにつながる研修であることを伝える必要がある。

大久保会長

収支計算書を説明する際に会としてどう改善していくかについて総会でお示しできるように説明する。

松井監事

決算報告をした上で、監査報告になるが、決算報告をする際にしっかり原因の説明をしていただいて、お金の流れは問題ないと説明したほうがやりやすいのではないかと。

大久保会長

事実として納得をしていただくように整理した上で原因を細かく分析し、どう改善していくのかについて研究大会の周知の仕方、それぞれの研修に参加されなかった方についてのニーズの分析も含めたいとお示しする形をとる。

橘 副会長

事業計画は会員の資質の向上のために各部の事業があるので、会として運営した結果足りなかったものの説明をしていく必要がある。

- 大久保会長 運営の在り方について研修のニーズがマッチしてないことについて参加者を集める方法として押さえておく部分ではないか。会員の方へ学んでいただく、ニーズについて精査していくことも必要である。
- 繁澤理事 研究大会がマイナス原因であるのであれば早めの情報提供と、他の研修も重なり早い段階で他の研修に申込まれた人もいたので、人を集める努力をしておらず、講師の選定等確実に決まっている方に流れていくので、開催場所についても集まりやすい場所で開催することも必要がある。
- 佐々木理事 原因は風通しの悪さであったのではないか。理事の方の盛り上がり、熱意につなげるための風通しに持っていく必要があった。
- 大久保会長 運営上の問題と人とのつながりを考えていくことを説明していく。
- 繁澤理事 会員が地域から上がってきた時点で連絡し、予算を100%で組んでいるのであれば補正を組み、事業の見直し等する必要がある。予定を立てていても人が集まらない研修の場合中止することもあることを伝えると、人を集める努力にもつながるのではないか。
- 大久保会長 理事会、総会での説明について原稿等作成し、常任理事の方へ見ていただける形でご連絡する。平成24年度事業計画について佐々木理事に説明をいただく。
- 佐々木理事 事業方針について、制度改正もありケアマネジャーの資質、あり方が検討されている中で資質の向上につなげていけるよう仕事の存在意義等、利用者の方が満足していただけるサービス提供ということ載せている。三層構造について権威していき、情報をリアルタイムに会員の方へ提供していく。地域の高まりと、県とのつながり、意見、動きを日本協会へ伝達していけるようにする。
重点目標として事務局機能の検討として、メリットの精査をして24年度内に結論を出していく。
事業計画について、各部の活動について会の運営、司会等について組織総務部をお願いします。広報事業部について会員の方への情報の発信を極力お金のかからないように今の機能が維持できるようなシステムを考えていく。調査研修部について県協会の情報収集ができたらいいのではないか。
- 岩神理事 県協会、各部の活動に何を求めているかの調査について、研修体系、研修へ参加しない方の調査をしていただけたら参加されない方に必要なニーズを調べることができるのではないか。
- 繁澤理事 各部で知りたい情報を調査研究部に伝え、調査していく形を作るのがよい。すべて研究発表をするというのは負担がかかるので検討していく必要がある。
- 佐々木理事 各部の決め方について、部長については内諾という形をお願いしている状況である。理事会終了後、新理事の方で話をさせていただき、

各部の活動をお示しして、適材の方へお願いする等結論がまだ出ていない状況である。

大久保会長 旅費の算出について事務局に説明を求めた。

事務局 旅費について4月より県社協の規定が変わり、実際にかかった距離を測ってきていただき1キロ30円で計算し、高速を使われる方についてはその金額を提示していただきお支払するので、前年度より旅費が高くなることが予想される。会の運営として厳しい状況であれば、旅費について団体で規定を作ってもかまわないとの連絡は県社協よりいただいている。相乗りで来られた場合は運転した方のみ支払い、ETCの使用等自己申告という形になるので確認する必要がある。

繁澤理事 収支が改善状態になるまで、従来通りのやり方をお願いする必要があるのではないか。

大久保会長 旅費について、県社協の規程に準ずることを細則に盛り込むとのことだったが、県社協の規程が変わり、今の会の運営状況では県社協の規定に準ずることが現状出来ない財政状況なので、旧の旅費の算出方法で行かせていただくことを理事会でお話していく。

佐々木理事 新理事の方について前年度と今回の旅費のやり方について金額の試算をすることができるのであれば試算していただく。

大久保会長 ケアマネジメント研究大会、実行委員について。

橘 副会長 実行委員について地域の事務局通しで話し合うことはないので、輪番制であれば問題ないが理事会で話合いの場を持つべきである。

岩神理事 実行委員の立ち上げ方についても協議するのであれば早い段階で検討する必要がある。

橘 副会長 実行委員については理事会で検討する。

大久保会長 介護報酬改定資料集について、100冊購入したことについて返品可能という条件で購入しているのでそこは日本協会の回答待ちである。

橘 副会長 2月の臨時常任理事会で資料集を何部購入するという話はでておらず、結論がでていない状態だったので、県で100冊、宇部で30冊購入を会長と事務局で部数を決めたのであれば、5月の実務事務研修までに返品することを会長より日本協会へ連絡していただくようにする。報酬改定資料集の性格上古くなったらいらぬものなので理事会までに確実に売れるものだけ持って帰っていただくようにし、売れないと思うのであれば時期を切って返品する必要がある。返品の時期も5月中で切らないと日本協会も長く待てないので期日を決めて販売、返品する必要がある。

大久保会長 返品可能とのことで注文をしているので介護報酬改定資料集について、県協会が不利益を被らないように進めていくので日本協会よりの回答をいただき、常任理事へご連絡する。

と き 午後5時00分

この議事録の内容が正確であることを証するため、署名捺印する。

平成24年4月18日

山口県介護支援専門員協会

議 長 _____ 印

署名人 _____ 印

署名人 _____ 印